

研修センター だより



2022.9
41



鳥取大学医学部附属病院 卒後初期臨床研修における研修理念

将来、社会が求める最適な医療を、安全に配慮して提供できる
優れた医療人となるために、

1. 医師としての基本的価値観(社会的使命、利他的態度、思いやり、自己向上心)を身につける。
2. 医学や医療に関する倫理原則を理解し行動する。
3. 日常診療で頻繁に遭遇する病態・疾患に対応できる基本的な診療能力を身につける。
4. 常に最新の医学知識の獲得に努めるとともに、科学的探究心を持ち、地域社会や国際社会、公衆衛生への貢献をめざす。
5. 他の医師や医療者と共に医療を行い、学び、互いに敬意をはらう姿勢を身につける。

TOPICS 鳥大 JMECCを研修医が受講

臨床研修合同説明会を開催

研修医向け勉強会のご紹介

卒後臨床研修センター 矢田貝 菜津子

活躍!先輩ドクター 第一内科 渡部 友視

泌尿器科 寺岡 祥吾

病理診断科 牧嶋 かれん

GOZZOで推しメシっ!

研修医日誌 乾 妃那、吉川 侑也

医局探訪 精神科 三浦 明彦





鳥大JMECCを 研修医が受講しました。



新年度が始まって早々、2日目の4月2日(土)に、鳥大JMECCを受講しました。鳥大で研修をスタートする医科の研修医は7名で、全員が参加しました。

新型コロナの感染傾向が本当にどうなるか、という状況だったので受講者全員、スタッフも1名を除いて全て院内職員での開催です。

日本内科学会認定救急講習会は、ICLSと内科領域の救急症例に対する初動を研修するものですが、本院では臨床研修開始時点での臨床実技を見る良い機会でもあり、1カ月後から始まる救急当直に備えた研修でもあります。採用直後の1年目研修医にこうした機会を与えていただくことは多くの良い点があり、今後も続けていきたいと思っています。

さて、今年の1年目は大人しい人ばかりで、7人を集めても静かです。まだ口を利いたことの無い同期もいるだろう新年度の2日目に、丸一日の研修で少々心配しました。

始めてみると、この日初めて話をするインストラクターとも気さくに会話ができる人、心臓マッサージの体勢と押し方が完璧な人、目を見開いて注視し一言一句漏らさず説明を聞こうとする人など個性がいろいろ見えて、興味深かったです。手技については苦手な部分を何度も演習して、体で覚えようとする意気込みが全員にあり、充実した講習会になりました。



臨床研修合同説明会を WEB開催しました。

盛夏真ただ中の8月5日(金)、臨床研修の説明会をオンラインで開催いたしました。

直前まで、記念講堂で学生さんに集まって頂いて開催する予定でしたが、鳥取県西部のコロナ陽性患者の爆発的増加を踏まえ、数日前にオンライン開催に切り替え、プログラム責任者や、各たすきがけ病院の説明者も含めてオンライン参加の形式となりました。

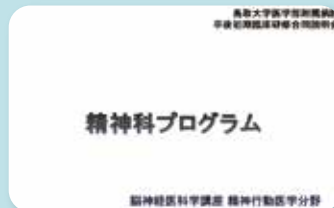
こうした直前変更などもあり、参加者は34名と決して多いとは言えない状況でしたが、接続にも問題なくスムーズに進行することができました。

参加いただいた皆様のご協力に御礼申し上げるとともに、来年以降の開催においては、こうした事態にも備えた十分な準備を行って開催したいと思います。



プログラム別の説明動画を
You Tubeにアップしました!

鳥取大学医学部附属病院研修
プログラムの紹介



#3



研修医向け勉強会のご紹介

卒後臨床研修センター
矢田貝 菜津子



当院では、研修医向け勉強会（名称：総合プログラム）を定期的に開催しています。講師は各診療科指導医で、毎回30分～1時間程度、テーマは『抗菌薬の使い方』、『輸液の選択』、『腹部超音波検査入門』、『穿刺法の基本（胸腔、腹腔）』『救急外来で出会う耳鼻科、眼科、口腔外科疾患…』など、研修医がまず知りたい、基本的かつ実践的な内容になっています。座学だけではなく時に手技指導もなされ、こういった勉強会を今年度は計26回企画しています。

また、当院のシミュレーションセンターには多数のシミュレーターが備えられており、もちろん研修医も利用が可能です。年度初めには中心静脈穿刺シミュレーターの指導が行われました。臨床現場で実践する前に、シミュレーターで手順をじっくり学ぶこと、イメージを掴むことは重要です。





第一内科診療科群 渡部 友視 医師

循環器内科の渡部と申します。既に卒後14年目なので研修医時代は遙か昔ですが、医者人生の最初ということもあり色濃く覚えてたりします。

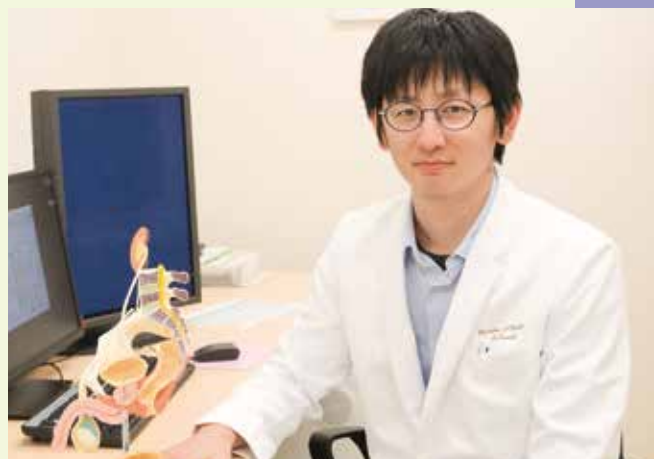
2009年に母校で研修を始めた私が最初に回ったのが、全国ニュースにもなった総辞職崩壊後の救急科でした。全スタッフ他科出向で指導医無し、プログラム無しのフル放置プレイでしたが、一つ上のデキレジ先輩に全てを教わり、心構えやカルテ書きから挿管・中心静脈穿刺まで当たって碎ける日々を過ごしました。この先輩のことは今でも神だと思っています。

しかしどれだけ前向きハイパーに取り組んでも出向医たちの目は冷やか。一つミスれば「1ヶ月回ってこの程度か」「あんたバカ?」と不条理に罵られる始末・・・もう何やねん! 絶対! と感じますが、まあ新卒社会人なんて皆そんなもんなのかもしれないね。優しい泌尿器のお兄さんが「努力は陰でやっても他人には見えない、思いっきり見えるようにしてようやく少し認められるんだ」とアドバイスしてくださって以降は効率的な研修生活を送れるようになりました。

全ての科が本当に思い出深く、毎回、魔女宅*ばりに「ここで働かせてください!」と叫び出す勢いでしたが、循環器だけは「やめておけ。こんな所に来てはならん」と複数人が入局を阻んでくださいました。その優しさと内科救急を頑張りたいかった気持ちで循環器に入り現在に至ります。

専門であるカテーテル治療は成功不成功が明確で偉い先生がこう言ったからこう! みたいな人がなくて好きです。取り組むほどに毎年新しい世界が見えてきてしまっていて困っています。もちろんマニアックな世界に入り込み過ぎた自覚もあるのでみんなやろうぜ! とはならないんですが、大学はそういうマニアが無数に生息しているのは知っていただきたいところです。結局どの分野も面白いし、やりがいに溢れてますよね。せっかくの大学研修なのでたくさんのマニアとも触れ合って濃い研修を送ってください☆

*魔女宅=魔女の宅急便(スタジオジブリ)

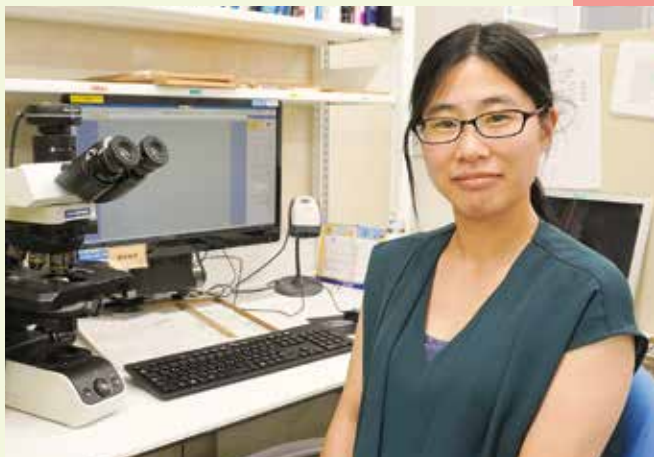


泌尿器科 寺岡 祥吾 医師

こんにちは。泌尿器科の寺岡と申します。産まれも育ちも鳥取で、2013年に鳥取大学医学部を卒業し、鳥取大学医学部附属病院で2年間の初期研修経験を経て、3年目での鳥取県立中央病院勤務以外は大学病院で臨床経験を積んできました。初期研修分も合わせますと、今年で大学病院勤務が9年目となります。ここでは、大学での初期研修2年を経験して、働く上で実感できたメリットもあわせて書かせていただきます。

大学病院では臨床以外に、学生教育や大学院での研究、アカデミックな内容など業務が多岐にわたり時間調節が難しいです。大学病院勤務が長くなると、大学病院のカルテシステムにも比較的詳しくなります。できうる限り、短縮できる業務を効率化するため、以前は手書きであった書類の一部を電子化したり、クリニカルパスやカルテテンプレートの作製などに尽力致しております。大学カルテシステムや診療の流れ、他科の診療状況、医療スタッフの立ち回りを研修できる大学での初期研修があったからこそ、何とかこなせています。また、大学病院の特色として、その医療分野における最前線に携われることもメリットの一つになります。今までMRI及び超音波検査融合画像による前立腺針生検法(Fusion biopsy)や前立腺癌放射線治療による合併症低減を目的としたSpace OARシステムの導入に携われることができ、自分のステップアップにつながりました。さらに、今年度から排尿ケアチームを担当し、術後の排尿障害患者さんへの介入を行っています。

仕事をする上で、鳥取大学医学部附属病院での初期研修2年での人とのつながりが非常に役立っていると実感しています。最後になりましたが、今のところ何とか医師として働くことが出来ているのは、諸先輩方や同期、後輩のみならず様々な医療スタッフのサポートがあってこそだと思います。この場を借りて、感謝申し上げます。今後とも日々、精進していきたいと思います。



病理診断科 牧嶋 かれん 医師

こんにちは。病理診断科の牧嶋かれんと申します。今年で卒業後8年目、病理医を始めてからはや6年目となりました。高校時代に研究の世界に興味を持ち、それを引きずっていたのか、学生時代に何となく面白いな〜と病理学に惹かれて、講座にお邪魔しては他大学含めた交流会や学会に連れて行っていたが、そのまま病理に居座りました。

学生時代から病理に行くことを決めていたため、臨床実習も研修期間もそれを全面に出して過ごしていました。病理志望者が少数派なのは周知の事実ですが鳥大では相当珍しかったのか、驚かれることが多かったものの、それ以上に“是非頑張っ”て、“病理医になるならこういうことも知っておいて”と、多くの応援とご指導をいただいたことを覚えております。病理の勉強は一生涯続くから、初期研修でしかできない経験をしよう、と、研修2年間は病理診断科を回らずに過ごしていました。ところが満を持して病理専攻医となり、診断標本が目の前に置かれた時、標本を見て固まってしまった。“答えのある診断クイズや考察してレポート書くようなことはしたが、純粋な外科病理診断をしたことがない”と。散々病理医志望と吹聴しておきながら、ぶっつけ本番状態で始まった病理医生活。タイミングの悪さ、要領の悪さに文才の無さも相まって、周囲に多大なご迷惑をおかけしながら、なんとか専門医をとり今に至ります。

私にとっての初期研修は、自分の仕事の反対側で何が起きているのかを確かめる期間だと思っていましたし、その過程で人との繋がりができたこと、日々の仕事の中に散りばめられた各人の流儀に触れたことが、一番の収穫であったと思います。今はまだまだ日々の業務をこなすのに必死で、いつも綱渡りしているような気分ですが、奢らず腐らず精進していこうと思います。以上、究極のマイナー科からのメッセージですが、研修医の皆様には何か参考になりましたら幸いです。

GoZzo
サシデシッ!
押し

谷本 瑞季 先生

蒸し鶏&野菜!
バンバンジー風サラダうどん

ふわとろ卵のせ!
オムマーボーライス (サラダ付き)

押し!
沖田 明子 先生

今回、職員食堂GOZZOを紹介してくださるのは、本院自由選択プログラムで研修中の1年目研修医、沖田明子先生と谷本瑞季先生です。お二人とも忙しい日々を過ごしておられますが、たまに時間があれば職員食堂でゆっくりランチする日もあるのだそうです。ささとお昼を済ませたい時には、店内のお弁当を買って、研修医室の自席で食べたり、院内のパン屋さんやおにぎり屋さんをチョイスすることも。

自炊もままならない多忙な研修生活で、食事のバランスや炭水化物や塩分の量に気になる二人にとっては、選択肢が多いのもありがたい環境ですね★

今日は、谷本先生が、「蒸し鶏&野菜! バンバンジー風サラダうどん」(500円)を、沖田先生が「ふわとろ卵のせ! オムマーボーライス(サラダ付き)」(500円)とどちらも! 入りの気合の入ったメニューを注文され、二人ともべろりと完食でした★(しっかりボリュームありますよ!)

充実メニューの職員食堂で英気を養って、また午後からも頑張ってください!

研修医日誌



2年目研修医 乾 妃那

はじめまして。研修医2年目の乾 妃那と申します。私は鳥取大学医学部附属病院の山陰たすきがけプログラムを選択し、1年目は山陰労災病院で、2年目からは大学病院で研修させていただいています。

1年目の山陰労災病院では、市中病院ならではの、軽症から重症まで様々な疾患を経験することができました。また、医療スタッフが大学病院に比べて少ないため、スタッフ同士の関係が濃密で、気軽に質問することができました。そのため、何もかもが初めてで、右も左も分からない状態の私にとってはとても働きやすい環境でした。特に、研修医が一番多く出入りするであろう救急外来では、ルート留置や動脈採血をはじめとする様々な手技を経験させていただき、何度失敗を繰り返しても、優しく教えてくださった先生や看護師さんにはとても感謝しています。1年間の研修で少しずつですが、自分のできることが増えていき、充実した日々を過ごすことができました。

2年目の大学病院では、4.5月に呼吸器・膠原病内科、6月に感染症内科で研修させていただきました。どちらの科も市中病院にはない専門性の高い科であり、希少な症例を経験できました。また、当直では1年目で経験できなかった、高エネルギー外傷や熱傷など、3次救急ならではの疾患をたくさん経験するようになりました。緊急性が高いものばかりなので、2年目ののに、何をしたらいいか分からず落ち込むことが多いのですが、自分にできることを積極的にやっていけたらなと思っています。

上述のように、市中病院、大学病院での研修はそれぞれメリットがあり、そのどちらも経験することができる、たすきがけプログラムはとてもおすすめです。

最後になりましたが、日々ご指導いただいている先生や医療スタッフ、卒後臨床研修センターの方々に、深く感謝申し上げます。今後とも、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

1年目研修医 吉川 侑也

1年目初期研修医の吉川侑也と申します。私は広島出身ですが、米子生活も7年目となり、今ではすっかり米子の人間だと自負しております。学生の頃は、研究室配属をきっかけに医動物学教室に出入りさせていただいていました。医動物学教室の先生方のご協力の下、WHOでインターンをさせていただき、顧みられない熱帯病(NTDs)について現地で学び、帰国後は鳥取大学医学部熱帯医学研究会を立ち上げました。医学部からの「出る杭を伸ばすプロジェクト」で支援の下、フィリピンでのフィールドワークに出発する前日に、COVID-19パンデミックにより鉄熱を飲む思いで諦めましたが、その2日後には現地の空港が封鎖されていました。もしあのまま行っていたら、今頃はすっかり現地の人になっていたかもしれません。その後は鳥取県内で猟友会のご協力の下、肝蛭という寄生虫の疫学調査を行いました。医動物学教室の先生方の温かいご指導、お力添えのおかげで、今では熱帯医学研究会は部員も30人を超え、なお精力的に活動しておりますので、今後ともよろしくお願いいたします。

さて、大学病院での初期研修ですが、私は自由選択プログラムで研修しております。このプログラムは名前の通り、自分の希望に沿って診療科や研修病院まで選択可能な自由度の高いプログラムです。大学病院での研修は指導医の数も多く、症例も手技も多角的に指導していただけます。症例の幅をさらに広げなければ、外病院で研修させていただくこともできます。日々の疑問は、先生方はもちろん、たすきがけプログラムで他病院で研鑽を積んでくれたた皆さんの先輩方に相談させていただいています。また初期研修医は卒後臨床研修センターという部署に所属しているのですが、研修上必要となる様々な事務手続きなど診療科での業務以外のすべては、卒研センターの職員の方々が行ってくれるので、我々は日々の勉強や業務に打ち込むことができます。これは非常に恵まれた環境だそうで、この場を借りてお礼申し上げます。

医局探訪



精神科

三浦 明彦

精神科は各種の精神疾患に関する診断、予防、治療、研究といった「人の心を扱う」唯一の分野であります。

当医局は令和2年度で兼子教授が退任され、昨年度より岩田教授の下、新体制で運営しています。若い先生を中心とした、より自由度の高い「人を育てる」という理念で教育に軸を置いた医局を目指しています。また基礎研究、臨床研究も多くの他機関と連携し精力的に行っています。

令和2年度に新型コロナウイルス感染流行のため、当院では精神科病棟がコロナ病床に置き換わり、研修医の先生方には当院で研修が行えず大変ご迷惑をおかけ致しました。令和3年1月より部分的ではありますが、当科病床が戻り、入院診療を再開しております。まだ感染拡大が続く状況で病床の完全復帰の目処は立っておらず、現在も周辺病院と連携し協力を得ながらなんとかやっている所です。

精神科医の仕事の特徴として、純粋に精神疾患の診療という側面だけでなく、その患者さんの「生活全般」に目を配るという点があります。これからはどんな仕事においても、このような視点を持つ事が重要とされ、それが自然と身につくのは魅力の一つだと思います。

またこの多様性の時代において各人が社会で活躍するた

めに一番重要な事のの一つが、「自分の特性を知る」という事です。精神科医療に携われば、人の特性を考える機会も多く、患者さんのみならず自分に合った環境が何なのかを考えたり、自分自身の課題に向き合ったりと、色々な気づきを得る事ができます。当科は精神病理学・薬理学・睡眠学、分子生物精神分析学、児童・老年精神医学、司法精神医学、リエゾン精神医学、病跡学等、他科に比べ幅広い専門分野があり、きっと何か自分のしたい事がみつかると思います。

当医局では働き方改革として、皆で協力して長期の夏休みや女性はもちろん男性でも育児休暇をとれるように取り組んでいます。実際に1週間程度の休みを年2回取る事を推奨し、また今年度、男性医師も部分的ですが一ヶ月間育児休暇を取得いたしました。

当医局の一番の売りは、雰囲気の良い所だと思います。皆さんと一緒に山陰の精神科医療を盛り上げ発展させていけると嬉しいです。

最後に今年の11月18日、19日に当学主幹で第62回中国・四国精神神経学会を開催予定です。興味がある先生方は奮ってご参加下さい。





行事予定

令和4年度後期

10月25日(火)14時	歯科マッチング公表
10月27日(木)14時	医科マッチング最終公表
11月3日(木・祝)	鳥大JMECC
11月18日(金)17時	鳥取県臨床研修セミナー「マルトリートメントについて(仮題)」
12月17日(土)～18日(日)	鳥取大学医学部附属病院臨床研修指導医講習会(予定)
11月～12月	マッチ学生との仮契約、採用準備、次年度研修編成
1月中旬	卒後臨床研修委員会(ベストレジデント賞、優秀指導医賞の承認)
1月下旬～2月初旬	医師研修管理委員会(次年度研修・研修補助金割振り承認)
1月31日(火)17時	修了予定研修医の到達目標にかかるEPOC入力締切り
3月中旬	卒後臨床研修委員会(修了判定・プログラム承認他)
3月中旬	医師・歯科医師国家試験合格発表
3月中旬	医師研修管理委員会(修了判定・募集要項とプログラム承認他)
3月中旬	歯科医師研修管理委員会(修了判定・募集要項とプログラム承認他)
3月下旬	卒後初期臨床研修修了式

令和5年度

4月3日(月)	鳥取大学医学部附属病院採用オリエンテーション
4月4日(火)	プレローテーション開始
4月8日(土)	鳥大JMECC(予定)

編集後記

最後まで読んでいただき
ありがとうございました。



今回も色々なイベント、個性あふれる指導医、研修医を紹介させていただきました。なかなかコロナが収束せず、皆さんの世界も狭くなりがちと思いますが、今後も本誌にて“当院に生息する無数のマニア”を紹介していければと思います(詳細は『活躍！先輩ドクター』の記事をご参照ください。)

この研修センターだよりは当院で研修を修了した先生方にも配布しています。勤務先や住所が変更になった場合は下記の連絡先までご一報ください。

(矢田貝 菜津子)



鳥取大学医学部附属病院 卒後臨床研修センター

〒683-8504 鳥取県米子市西町36-1
TEL 0859-38-7025 FAX 0859-38-6974

E-mail jimsotsugo@ml.adm.tottori-u.ac.jp <http://sotsugo.med.tottori-u.ac.jp/>

